

## 長岡京市第二期環境基本計画について

平成25年3月に長岡京市環境基本計画（平成13年3月策定）を改定しました。第一期の計画を引き継ぎ、幅広い視点から環境をとらえた総合的な環境まちづくりのガイドラインであり、環境政策の基本指針として位置づけられています。

## 長岡京市第二期環境基本計画実施計画について

長岡京市第二期環境基本計画の策定を受けて、より具体的に取り組みを進捗させるため平成26年4月に「長岡京市第二期環境基本計画実施計画」（以下、「実施計画」）を策定しました。

また実施計画においては、長岡京市第4次総合計画（2016年～2030年）で位置づけられている環境面の施策とできるだけ連動させ、整合を図っています。

## 長岡京市第二期環境基本計画実施計画進捗報告書の目的

- ・実施計画の取り組み成果を「見える化」
- ・市民の環境意識の向上
- ・市の環境関連施策の周知

## 進捗評価の方法

- ・進捗評価は、事業実施課が自己評価を行います。
- ・評価は、下記を目安として行います。

### <評価の目安>

	数値目標	定性の目標
◎	目標数値を達成	目標の状態に達している
○	目標数値の7割以上達成	目標の状態に完全には達していないがおおむね達成していると判断できる
△	目標数値の7割未満の達成	前年度より進捗している
×	目標に達するための取り組みをしていない	前年度から取り組んでいない

## 進捗評価の活用

- ・生活環境審議会は、必要時には、市長に対し施策の提言を行います。
- ・各事業課は、進捗が遅れている場合などは、次年度以降の取り組み計画などを見直します。
- ・継続して評価を積み重ね、次期計画改定の際の資料とします。

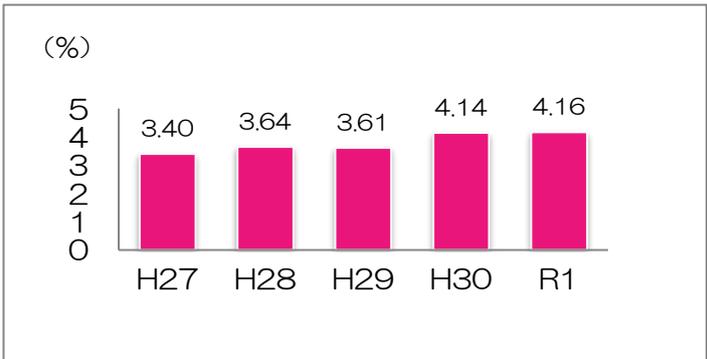
# 1. エネルギーを大切にするまちづくり

## 目標指標 再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率

令和元年度の目標	令和元年度の結果
4.18%以上	4.16%

※参考：環境モデル都市 長野県飯田市 10.44% (R1 年度末)

過去5年間の再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率の推移



### (1) 再生可能エネルギーの活用

#### ①家庭、事業所などへの再生可能エネルギーの導入

## 薪ストーブ設置助成・西山産薪購入助成の実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
薪ストーブ助成件数 3 台	薪ストーブ助成件数 0 台
薪購入助成件数 900 束	薪購入助成件数 440 束



西山の森林・竹林の整備により間伐された木材の活用を図り、継続的な森林整備と地域資源循環型社会を構築し、地球温暖化防止につなげていくため、薪ストーブと西山産薪の購入に対して助成を行っています。

令和元年度は、薪ストーブ購入設置助成については、実施がありませんでした。

西山産薪は 440 束 (21 件) の補助申請があり、昨年度よりも 165 束減少しました。薪の供給可能数に達したため、そこで補助終了となりました。薪の原料としてきた病虫害の被害木などが一定整備できていることから、今後もこれまでのような供給量を確保するのは難しい状況です。



薪ストーブ

## ②公共空間における再生可能エネルギーの導入

公共施設における発電量の把握及び  
新築・改築時の再生可能エネルギー導入

令和元年度の目標	令和元年度の結果
発電量の把握 再生可能エネルギーの導入	発電量の把握 再生可能エネルギーの導入



新田保育所屋上に設置された太陽光パネル

市では、公共施設の更新時などにできるだけ省エネルギーに配慮するとともに、再生可能エネルギーの導入も進めています。

平成31年4月には長岡第六小学校・新田保育所複合施設の屋上に太陽光パネルを設置し、稼働を始めました。

発電量の把握についてですが、小学校屋根の太陽光発電システムについては、発電量を記録しておく仕様になっていませんでした。そのため、発電出力を元にした理論値で計算しました。

また、太陽光以外にも、水道施設において小水力発電設備の導入を進めており、平成29年度末には、北ポンプ場に22kWクラスの小水力発電設備を設置し、令和元年度実績で171,694kWh発電しました。また、現在東配水池においても、同クラスの小水力発電設備の導入を進めています。



### <公共施設における太陽光発電システム設置状況>

施設名	最大出力 (kW)	施設名	最大出力 (kW)
	発電量 (kWh)		発電量 (kWh)
バンビオ1番館	10kW	長岡第五小学校	15kW
	8,635kWh		15,000kWh
バンビオ2番館	30kW	長岡第六小学校複合施設 (新田保育所部分)	4.32 kW
	故障中		5,010.9kWh
東第二浄水場	40kW	長岡第七小学校	30kW
	22,115.7kWh		30,000kWh
西代里山公園	5.46kW	長岡第九小学校	4kW
	6,960.41kWh		4,000kWh
神足小学校	29 kW	長岡第十小学校	4kW
	29,000kWh		4,000kWh
長法寺小学校	0.912kW		
	912kWh		
合計			172.692kW
			125,634.01kWh

※長六小以外の小学校の太陽光発電システムの発電量については、パネル1kWあたり1年間で1,000kWhで計算した理論値である。

- ③住民参加型再生可能エネルギー利用システムの導入
- ④地域特性等を踏まえた再生可能エネルギー導入の検討

竹林資源の活用方法・自治体PPS  
(シュタットベルケ)の調査・検討



令和元年度の目標	令和元年度の結果
他市事例研究企画検討	他市事例研究企画検討

竹のバイオマスボイラー燃料としての活用を検討するため、10月3日に関係者を集め竹林資源利用ネットワーク会議を開催しました。これまで竹林整備団体やボイラーメーカー等、個別に課題等をうかがってきましたが、一堂に会し課題を共有することで、事業化に向けた前向きな検討を行うことができました。今後は会議を通して洗い出された課題の解決が可能かどうかを検証していきます。

自治体新電力については、京都府や地球温暖化防止活動推進センターへのヒアリングや、新電力事業者から提案をいただき、情報収集・調査研究を行いました。エネルギーの地産地消と市域の再エネ比率を高める手法について、自治体による新電力会社を設立する方法以外の手法を含め、今後の検証を行っていきます。

## (2) 省エネルギーの推進

- ①エネルギー効率の改善

中小企業等に向けた  
省エネ診断等の情報提供

令和元年度の目標	令和元年度の結果
省エネ診断 再エネコンシェルジュの情報提供	省エネ診断 再エネコンシェルジュ等の情報提供

市域全体の省エネルギーを推進するため、京都府のチラシなどを活用し、商工会を通じて中小企業に向け省エネ診断等の情報提供を行いました。

情報提供にあたっては、温暖化対策を意識していただけるように、クールチョイスの説明や賛同の呼びかけを併せて行いました。



## 環境に優しい市庁舎の建設

令和元年度の目標	令和元年度の結果
新庁舎建設実施設計	新庁舎建設実施設計

令和元年度は、平成30年度に作成した長岡京市庁舎等再整備基本設計に基づき、新庁舎建設に向けて実施設計を作成しました。実施設計においても引き続き『経済性・環境性能に優れ、機能的な庁舎』という基本方針に基づき、井水や雨水などの自然エネルギーの有効活用や、Low-E ガラスの採用による外部熱負荷の抑制など、新庁舎の環境配慮機能について具体的に決めました。今後も、最大限エネルギー効率の高い庁舎となるよう検討を重ね、検討経過については記録を残していきます。



## ②持続可能型エネルギーシステムの地域モデルの開発

### 省エネナビモニター事業の実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
参加世帯電気使用量 前年比平均 10%削減	参加世帯電気使用量 前年比平均 33%削減

省エネナビをモニター家庭に貸し出し、電力を「見える化」することで日々の電気使用量を意識し、家庭の省エネを推進する事業です。分電盤の形状から、モニター機器が設置できない家庭が増えているため、令和元年度からは、機器の設置にこだわらない形で参加をいただいています。モニター期間中は、省エネアドバイザーによるアドバイスやモニター同士の情報交換ができる場として「意見交換会」を開催し、「楽しく省エネ！」を合言葉に、家庭の省エネを推進しました。省エネアドバイザーの助言もあり、家電の見直しを行った家庭で大幅な電気使用量削減が実現できました。



## ③省エネルギーの取り組み拡大につながる広報・キャンペーンの展開

### 夏季・冬季における省エネの呼びかけ

令和元年度の目標	令和元年度の結果
広報紙・HPでの啓発 省エネモニター結果の公表	広報紙・HPでの啓発 省エネモニター結果の公表

長岡京市の温室効果ガスは、家庭と事業所（産業系を除く）から多く排出されています。令和元年度も継続して、すぐに取り組める省エネとして「今月のいちエコ」を広報へ掲載しました。また夏季及び冬季の省エネナビモニターへの参加を呼びかけるとともに、その取り組みの結果を広報長岡京やホームページで広く公表しました。



### (3) エコ建築の普及

#### ①エネルギー効率の高い建築物の整備

##### 環境に優しい市庁舎の建設

令和元年度の目標	令和元年度の結果
新庁舎建設実施設計	新庁舎建設実施設計



本市では、平成27年度に策定した「長岡京市公共施設等総合管理計画」を踏まえ、公共施設検討会議等において「長岡京市庁舎等再整備」について協議・検討を行い、平成29年4月に基本構想を、平成30年3月には「基本計画」を策定しました。平成30年度は、それらを踏まえた、長岡京市庁舎等再整備基本設計を作成、令和元年度には、長岡京市新庁舎等建設工事実施設計を作成しました。部門間で連携し、新庁舎が最大限エネルギー効率の高いものとなるよう努めています。

また、建築物の低炭素化推進のため、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、京都府内産や市内産木材等の利活用方針が、京都府内すべての自治体で策定されています。

目標を達成

##### 公共施設での緑のカーテン等緑化の取り組み

令和元年度の目標	令和元年度の結果
公共施設での緑化規模拡大	8箇所（平成30年度同様）
全14校実施	全14校実施

夏季のエネルギー効率を高めるため、庁舎や出先機関などの公共施設では、グリーンカーテンやすだれなどを活用し、日中のエアコンの使用量を削減するよう取り組んでいます。



長岡第四小学校のグリーンカーテン

令和元年度も、できるだけ多くの箇所で実施できるよう、参加可能な公共施設に働きかけ、(公財)長岡京市緑の協会とも連携し、市職員がゴーヤ、アサガオ、ユウガオ、洛いもで緑のカーテンづくりに取り組みました。

また、市域全体でグリーンカーテンの取り組みを広げるため、平成25年度から実施している「グリーンカーテンコンテスト」(主催：(公財)長岡京市緑の協会)を開催し、家庭や団体の部門ごとに表彰が行われ、令和元年度の団体部門では、平成29年度・30年度に続き、長岡第四小学校が3年連続で最優秀賞を受賞しました。

## ②エコ建築普及につながる情報の発信

### まちづくり協議時の案内内容の更新

令和元年度の目標	令和元年度の結果
案内実施	案内実施



「長岡京市まちづくり条例」に基づく開発の事前協議である「まちづくり協議」の際に、開発事業者等に対してエコ建築の普及を促しています。

## ③建築物のエコ化につながる仕組みづくり

### 住宅エコリフォーム助成の実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
助成件数 10 件	助成件数 2 件



令和元年度においても住宅の断熱性能を向上させるため「住宅エコリフォーム補助金」を実施しました。補助制度が分かりにくかったのではないかと反省から、補助対象工事を窓の断熱改修工事に限定し、シンプルな内容としましたが、補助件数は伸び悩み 2 件という結果でした。

## (4) エコ交通システムの導入

### ①公共交通利用の促進

#### 利用啓発及び利便性向上策の実施

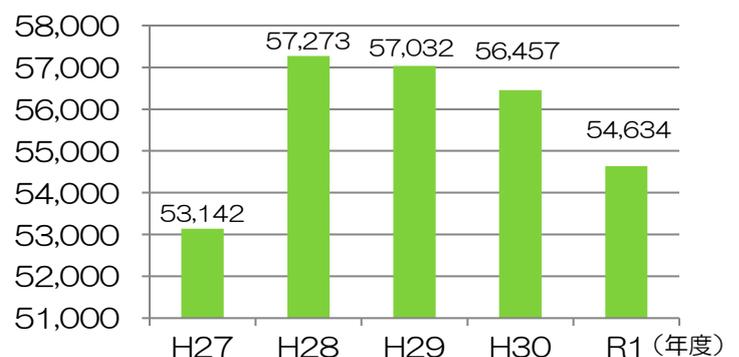
令和元年度の目標	令和元年度の結果
はっぴいバス1便あたりの利用者数14.7人	はっぴいバス1便あたりの利用者数13.0人



平成 18 年の運行開始以降、市民の足として利用は定着しています。夏休みや冬休みに小学生無料乗車期間を設けたほか、運転免許証自主返納者に対しバスの乗り方、乗継方法等について説明を行い、利用促進を図りました。

済生会京都府病院の移転に伴うはっぴいバスのルートについては、地域公共交通会議や利用者の意見を踏まえて令和 2 年度から本格的に検討していきます。

過去5年間のはっぴいバス利用者数の推移（人）



## ②低公害車の導入

### 公用車への天然ガス、ハイブリッド、電気自動車等の低公害車の導入



令和元年度の目標	令和元年度の結果
導入率 65.0%以上	導入率 69.4%

低公害車とは、電気や天然ガスを燃料とするもののほか、ハイブリッド車、低燃費車を含みます。これらの自動車を導入することで、公務に伴う環境負荷を低減するとともに、市民の方への啓発を行っています。

## ③自動車の排出ガスの抑制

### エコドライブ啓発

令和元年度の目標	令和元年度の結果
啓発活動 2 回 市HPでの情報提供	啓発活動 2 回 市HPでの情報提供

「地球温暖化防止月間」の12月に、のぼり旗を市役所前に掲出して啓発を行いました。また、交通安全啓発とあわせて、エコドライブのちらしを配布し、環境に配慮したエコドライブ推進の啓発を行いました。市ホームページでは、「アイドリングストップ」と「エコドライブ」について常時情報発信しています。



のぼり旗の掲出（市役所前）

## ④自転車利用の促進

### 自転車走行空間の整備

令和元年度の目標	令和元年度の結果
200m	未整備

令和元年度の自転車歩行空間の整備は、未整備となりました。未整備となった原因は、歩道拡幅に伴う用地買収に時間を要したためです。

令和2年度中に用地買収を完了し、令和3年度の整備を目指します。



## ⑤電気自動車の充電設備の導入

### 急速充電器の利用促進

令和元年度の目標	令和元年度の結果
阪急西山天王山駅 市営駐車場 利用台数 300台	阪急西山天王山駅 市営駐車場 利用台数 459台



二酸化炭素の排出を減らし、大気汚染を防止するため、長岡京市では電気自動車の普及促進を行っています。電気自動車の普及に向けた課題として充電設備の不足、インフラの整備があります。現在民間設置のものでは、市内に数カ所の充電器がありますが、まだまだ電気自動車利用者にとっては、便利な状態とは言えません。そのため、本市では、阪急西山天王山駅東側の市営駐車場に1基急速充電器を設置し、市営駐車場利用者へ利用を勧奨しています。常連の利用者もおられるなど、徐々に充電器の存在が認知されてきたと見え、令和元年度は目標を大きく上回る結果となりました。

市役所駐車場に1基の急速充電器がありますが、庁舎建て替え工事に伴い、現状は利用を停止しています。新庁舎での充電器設置については未定ですが、今後、新庁舎において付加する機能検討の中で、市民の利便性や庁舎の役割、スペースの有効活用等を踏まえた議論が必要です。

## 2. 資源循環型社会の形成

目標指標 一人一日当たりの収集ごみ量

令和元年度の目標	令和元年度の結果
520.6g	535.42g

参考：京都府下（京都市を除く）の平均 554g（平成 29 年度実績）



### （1）廃棄物の発生抑制・再生利用の推進

#### ①廃棄物の発生抑制

保育所及び小中学校給食から排出される生ごみを再資源化することによるごみの減量

令和元年度の目標	令和元年度の結果
保育所 5カ所 小学校 3校 中学校 4校	保育所 5カ所 小学校 3校 中学校 3校



生ごみの再資源化を検証するため、平成 29 年度の 2 保育所での食品残渣再資源化を皮切りに、順次取り組み主体を拡大しています。令和元年度には上記の保育所、小・中学校で、26,890kg の食品残渣の再資源化を実施しました。

#### ②廃棄物発生抑制、再生利用につながる広報活動の展開

出前講座の実施拡充

令和元年度の目標	令和元年度の結果
実施回数 18 回/年	実施回数 15 回/年



令和元年度は全ての保育所と学校で出前講座を実施しました。実施にあたっては、子ども達にも理解しやすいよう、ごみ分別ゲームの実施やデジタル紙芝居の上映、パッカー車での作業体験など、楽しみながら学べるよう工夫しました。



出前授業の様子

### ③廃棄物減量等推進員会議の活動促進

#### 廃棄物減量に伴う研修会及び啓発活動

令和元年度の目標	令和元年度の結果
研修会 4 回 啓発活動 1 回	研修会 3 回 啓発活動 1 回

廃棄物減量等推進員は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第5条の8に基づき、市が委嘱し、市が実施するごみ減量の取り組みに協力するなどの活動を行います。

令和元年度は、推進員への研修として、指定ごみ袋制についての理解を深める内容の研修などを、職員や外部講師を招いて実施しました。また、ごみ処理施設や古紙リサイクル工場へ視察に行ったほか、「マイバッグキャンペーン」として、スーパー店頭等での啓発を行いました。



マイバッグキャンペーン  
街頭啓発の様子

## (2) 資源回収の推進

### ①分別収集の促進

#### 宅配便回収サービスによる使用済み小型家電の回収量

令和元年度の目標	令和元年度の結果
2.7t	4.6t

平成 24 年度に制定された「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」第 5 条により、市町村は使用済み小型家電を分別し回収するための措置に努めることとされています。

本市も平成 27 年度から「小型家電リサイクル法」の認定事業者と協定を結んで実施しており、ごみ減量のしおりやホームページ等で広報しています。



### ②市民が主体となった資源回収の支援

#### 資源ごみ集団回収助成事業

令和元年度の目標	令和元年度の結果
団体数 (86 団体) の維持	実施団体数 85 団体

資源ごみ集団回収活動とは、自治会、老人会、子ども会などの地域住民により構成される団体が中心となって古紙などの資源を集め、それらを回収業者に引き渡してリサイクルを進めていく活動です。対象の資源物は、古紙類（新聞紙、雑誌、ダンボール、その他古紙類）及び古繊維（古着等）です。1 団体減ったのは、2 団体の統合によるためです。



### (3) 廃棄物の適正処理

#### ①一般廃棄物等の適正処理

一般廃棄物（家庭系・事業系）を収集し、適正に処理する

令和元年度の目標	令和元年度の結果
一般廃棄物量 20,533.05 t	一般廃棄物量 22,382.00 t



令和元年度は、平成30年度の22,107.23 tから274.77 t増加しました。今後は、指定ごみ袋制の導入により、さらなるごみの減量を進めます。

#### ②一般家庭用可燃ごみの収集

週2回の収集を実施し、適正に処分する

令和元年度の目標	令和元年度の結果
住民一日一人当たりのごみ排出量 427.59 g	住民一日一人当たりのごみ排出量 446.4 g



家庭から出る一日一人当たりのごみの量は、目標値より18.81 g多くなり、昨年度とほぼ同水準の結果となりました。今後は、指定ごみ袋制の導入により、さらなるごみの減量を進めます。

#### ③粗大ごみの収集

受益者負担による粗大ごみの適正処理



令和元年度の目標	令和元年度の結果
家庭系粗大ごみ収集量 260.05 t	家庭系粗大ごみ収集量 216.76 t

令和元年度は、台風被害の影響でごみの多かった平成30年度と比較して、33.28 t減少しました。

市内に粗大ごみが不法投棄されていることも少なくない中、無料回収の業者に安易に引き渡さないよう今後もホームページ等に掲載するなど注意喚起を行い、適正な排出を呼びかけていきます。

#### ④適正処理に向けた広域連携

##### 乙訓二市一町での事務連絡会の開催による処理課題の解決

令和元年度の目標	令和元年度の結果
事業系ごみの排出量 5,131.00 t	事業系ごみの排出量 6,492.30 t



事業系ごみの増加は、同じ廃棄物処理施設を利用している乙訓二市一町の共通課題です。景気の影響に左右されやすいところではありますが、本市では、平成 30 年度実績から 381.37 t 増加し、目標を 1,361.3 t 上回る結果となりました。

#### (4) 水資源の有効活用・水環境の整備

##### ①雨水利用の推進

##### 雨水貯留タンク設置数（累計）

令和元年度の目標	令和元年度の結果
600 基	472 基



市広報紙や水だよりに記事を掲載、開始日には説明会を開催したほか、駅や公共施設にポスターを掲示、SNS を活用するなど広報を拡充しました。助成開始から 10 年以上が経過し、市内の希望者にはある程度いきわたったと思われることから、助成件数は 21 件に留まりました。今後は、防災の観点で宣伝するなど広報の拡大に努めます。

##### ②水を大切にするライフスタイルの普及啓発

##### 水だよりの発行

令和元年度の目標	令和元年度の結果
3 回発行/年	4 回発行/年



水だよりでは、水質検査の結果、水道施設や下水道施設の状況等をお知らせするとともに、水を大切に考えてもらうための内容や下水道の正しい使い方などを掲載しています。なお、令和元年 10 月 1 日の消費税率変更に伴う料金改定周知のための臨時号を、令和元年 9 月 1 日に発行しました。水だよりの発行を通して、上下水道の安心を支えるための情報発信を行っていきます。



### ③下水道事業の推進

#### 小中学校に雨水貯留浸透施設を整備

令和元年度の目標	令和元年度の結果
水循環再生プランの見直しを含めた事後評価と検討	水循環再生プランの見直しを含めた事後評価と検討

水循環再生プランの事後評価のため、雨水貯留施設設置箇所の現況調査を行いました。引き続き現況調査・利活用の状況確認を行い、事後評価を行ってまいります。



#### 水循環再生プランの目的

雨水の貯留浸透施設の新設や、既存の水循環機能を保全・整備し、かつての健全な水循環を再生することで、近年の集中豪雨による浸水被害リスクを軽減します。また、水資源を効果的に活用して、地下水の保全や日常生活での利用につなげることを目的としています。

#### 10年降雨確率に対する雨水対策整備率

令和元年度の目標	令和元年度の結果
69.8%	67.7%

市の中心部に位置する犬川排水区の整備に向けた計画を進めて行くためには、事業認可変更が必要であり、平成30年度は、事業認可変更に向けた、関係機関との協議をまとめました。令和元年度は、予定していた雨水工事の工程が令和2年度にずれ込んだため、雨水整備率の増に反映できませんでした。当該工事は、令和2年度中に工事完了する見込みです。



※10年降雨確率に対する雨水対策整備率とは…

おおむね10年に1回の大雨を想定し、下水道施設の整備を行います。  
このような下水道整備ができた区域の比率をいいます。